



でしょう。なにか男女の出会いがうかがわれるデザインが必要でしょう。図書館とはそうした期待のある空間だろう。

### 図書館の看板娘

次に私の印象に残っている図書館というものを紹介したい。私はこれまで7大学に属したこともあり、知っている図書館は多い。卒業した大阪大学大学院、京都大学大学院、関西大学、講師で通った武庫川女子大学、関西学院大学、京都造形芸術大学。そして昨年からは徳大に赴任し、週末には関学や武庫女の非常勤講師をしているので、図書館カードは、母校のカードも含めて常に数枚を持ち歩いています。

今日、図書館とはハードな施設のことばかり議論されるが、図書館とは単なる器であり、そこで織り成される人間模様の主人公は、人である。私は、これまで利用させてもらってきた図書館のなかで、一番いいなあと思ったところは、宝塚市立の図書館だ。「あの本よかったわあ」「こんな本入りましたよ」と、常連さんとライブラリアンとのやり取りが飛び交う。また本のことを質問しても、どんな難題にもつきあってくれる。それもベテランというよりも意外と若い人なのだ。そうした図書館には本を好きな人が集まる。

また大学図書館では、関西大学の総合図書館が印象深い。ここは図書館がいいという理由(蔵書)で、大学に在籍する研究者も少なくない。図書館が求心力をもっているいい例である。関西大学のライブラリアンも若いのが気持ちよく人材教育されている。今日、巷で人を魅了しているいわゆる癒し系のカフェとは、よく教育され

た店員の魅力であって、その施設というのは二の次である。だからといって、人材教育といっても押し付け型の教育ではなく、実際に人気のある店員がいうには、マニュアルではないらしい。形式的なマニュアルはないらしい。ただ自分がお客さんであるときに、うけたいサービスをするという、極めて自主的なものである。従来の教育ではなく、己自身が考えるものである。これは何も店員教育だけでなく、実際、我々のような教員にとっても最も見習うべき点であろう。

図書館の話からそれたようであるが、図書館もそれと同じで、心地よい図書館に若いライブラリアンがいるのも、近年の若者がそのことをよくわかっているからなのかもしれない。つまり利用者の感覚があって、時には利用者である人が、時にはサービス側に回っているという感じだ。利用者は、利用のプロであるから、またサービスのプロにもなれるのだろう。最近の社会とはそのようなシステムになっている。

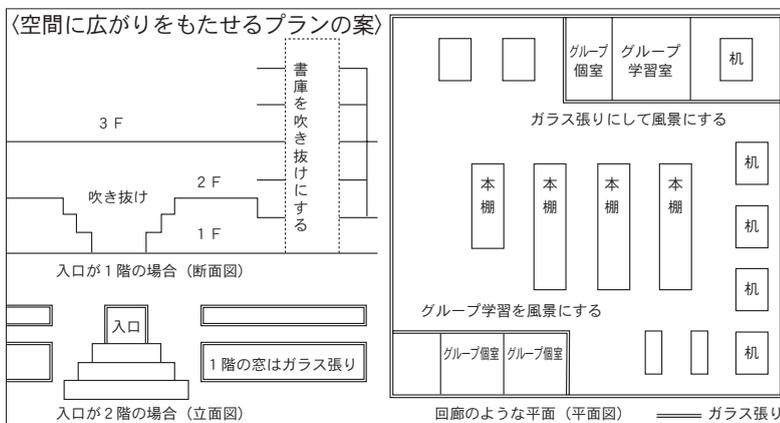
### 空家利用のカフェの発想

サービスの話になってしまったが、また空間の話に戻ろう。いずれにしても、施設すなわち空間を考える時には(今回の場合は、図書館改修)、そのサービスをする人という観点、そしてその空間で織り成される雰囲気という、こうした多様な側面から考えていかななくてはならない。施設像とはその次である。施設なんていうものはあとからついてくるものだ。

近年、文部科学省の意向では、できるだけ既存の施設を活かすよという方針であるが、これは逆手に取ると、人を集めている癒し系の

カフェと同じ条件である。つまり彼らは 昭和40年代の古めかしいビルディングに、プロに頼まず、自分たちの手作りで改修をすすめているという方法である。プロ任せでなく、自分たちで作って改修していくものだ。こうした意識で図書館改修をすすめれば、日本でも話題の図書館となるだろう。  
(みやけ まさひろ

・工学部建設工学科助手)



# 平成14年度附属図書館事業計画について

附属図書館ではこれまでその年の事業計画を策定して、サービスの向上と業務の改善に努めてきています。これまでの取り組みについては、「附属図書館整備・改善の歩み」をご覧ください。

## 1 平成13年度事業計画の進捗状況

昨年度中に実施することができた事業の主なものは次のようであり、学内の皆様のご支援とご協力に感謝申し上げます。

- 学長裁量経費により本館・分館に自動入退館管理システムの導入
- コア・ジャーナル経費の共通経費化の実現 Elsevier 社等の電子ジャーナル 3,000 余誌の提供
- 試験期の開館時間の延長 (21 時から 23 時) 約 4 万冊の遡及入力実施 (計画の 2 年目)
- 全教官・大学院生に利用アンケートの実施

## 2 平成14年度事業計画

6月3日開催の附属図書館運営委員会において承認された、今年度の事業計画は以下のとおりである。

### A 建物、施設・設備

1. 附属図書館本館の増改修計画
2. 館内スペースの有効活用について検討

3. 学部等からの返却資料の配置計画
  4. 環境整備と館内アメニティの改善
- ### B 図書館資料の充実
1. コア・ジャーナルの一層の整備と利用の改善
  2. 学生用図書の整備・充実方策の検討
- ### C 利用者サービスの改善
1. 図書館利用指導の推進
  2. 授業へのサポートの定着
  3. グループ学習室の整備
- ### D 電子図書館的機能の充実
1. 所蔵資料の遡及入力 (第3年次)
  2. 電子ジャーナル, 二次情報 DB の充実
  3. 電子ジャーナルのトライアルサービスの実施と評価
  4. ネットワーク上の情報サービス源の提供
  5. 徳島大学紀要目次情報 DB の提供
  6. 貴重資料の DB 化の促進
- ### E 自己点検・評価及び業務の改善
1. 独立行政法人化への対応
  2. 自己点検・評価の実施
  3. 重複資料の廃棄
  4. 事務一元化後の業務の整備
- ### F 広報活動
1. ホームページの改善と英文版の開設
  2. 印刷物と電子媒体の使い分けによる広報体系の再編成

## 本学教官著作寄贈図書

本 館

寄 贈 者	著 者 名	書 名
高 橋 晋 一	高 橋 晋 一 著	中国語：台湾を旅する
森 本 忠 興	岡崎邦泰, 森本忠興, 武藤芳照 編	乳がん術後の運動・生活ガイド：運動療法と日常生活動作の手引き
中 嶋 信	中嶋 信, 神田健策 編	21世紀食料・農業市場の展望

蔵本分館

寄 贈 者	著 者 名	書 名
西 谷 弘	西 谷 弘	MRI 検査の実践
大 木 崇	大 木 崇	心エコー・ドプラ法の臨床
武 田 憲 昭	武 田 憲 昭	E B M に基づくめまいの診断と治療
高 杉 益 充	高 杉 益 充	薬剤識別コード事典 平成 14 年改訂版
高 杉 益 充	高 杉 益 充	薬効別医薬品の適正使用指針



# 学術情報の流通基盤の充実について

科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会情報科学技術委員会デジタル研究情報基盤ワーキング・グループにより、表題のような「(審議のまとめ)WG報告書」が去る3月12日に取りまとめられました。

ここでは、主な柱を紹介しますが詳しくは、次のURLをご覧ください。

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/toushin/020401.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/toushin/020401.htm)

## 1. 学術情報の流通基盤に関する現状

- (1) 学術情報をめぐる環境の変化
- (2) 我が国の学術情報流通体制の現状
- (3) これまでの取組

## 2. 学術情報の流通基盤に関する基本的方策

- (1) 学術情報を体系的に収集する体制の整備
  - 大学図書館における資料・提供機能の強化
  - 電子ジャーナルの購読契約に関して出版社等と協議を行う体制の整備
  - 電子ジャーナルを安定的に利用できる体制の整備
  - 外国雑誌センター館による支援
- (2) 大学等からの学術情報発信機能の整備
  - 統一的な情報発信体制の確立
  - 大学図書館における電子図書館的機能の整備
  - 情報処理関連施設等による支援
  - 体系的な資料所在情報の整備
  - 大学間等の連携による機能の充実
- (3) 学協会からの学術情報発信機能の整備
  - 学術雑誌の電子化支援方策の改善
  - 学協会における取組
- (4) 日本発の学術情報を世界に向けて発信する機能の整備
  - 学術情報のポータル機能の整備
  - 原著論文で構成される英文学術雑誌の発行と編集体制の国際化
  - 国際的な流通の促進

- (5) 電子化情報のアーカイブ機能の整備

## 3. 学術情報の円滑な流通を図るための当面の具体的方策

- (1) 電子ジャーナル等の体系的な収集
- (2) 大学等からの学術情報発信機能の強化
- (3) 学協会からの学術情報発信機能の強化
- (4) 学術情報の海外への流通を支援する仕組み
- (5) 国立国会図書館への期待
- (6) 学術情報の電子化・流通等を推進するための国立情報学研究所による支援

「大学等からの学術情報発信機能の整備」の中では、統一的な情報発信体制の確立の必要性につき、以下のようにまとめられています。

これまででも、大学等からの情報発信は、電子図書館的機能の整備、大学等のホームページの活用、研究者個人による取組などにより行われてきたが、大学等が生産する学術情報を国民に直接還元するために、今後は、体系的な情報発信のための体制作りが必要である。

また、発信された情報は、地域の企業等との産学連携や地域住民の生涯学習に活用されることも考えられるので、知的財産権の管理を含めて、そのような利用にも配慮する必要がある。

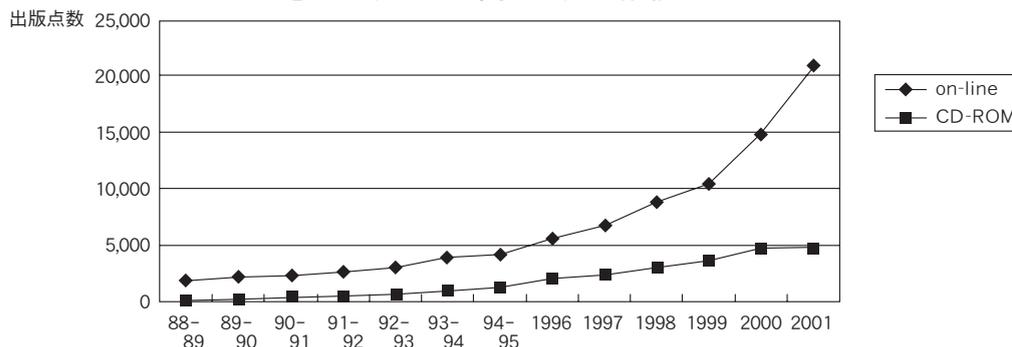
### 統一的な情報発信体制の確立

大学等から発信される様々な学術情報が簡便に利用できるためには、総合的な情報の発信窓口(ポータル機能)を設置し、統一的な規約によって情報を発信する必要がある。

このため、大学図書館が中心となって、情報の形式、登録方法などに関する統一的なルールについて、学内での合意を形成する必要がある。

さらに、大学図書館と情報処理関連施設等が協力して情報発信のためのシステムの設計・構築を行う必要がある。

## 電子ジャーナル出版点数の推移



(Ulrich's Periodical Directory により、学術分野の電子ジャーナルのタイトル数を調査したもの。)

## 大学からの学術情報発信

国立大学における学術情報発信の分担状況

発信情報	部署		情報処理 関連施設		学部 研究科 研究所センター		大学広報室等		研究協力課(係)		合計 (大学数)	
	紙	電子	紙	電子	紙	電子	紙	電子	紙	電子	紙	電子
大学としての情報発信についての企画・調整							88		1		89	
学内で開催される学術的活動の案内	4	3	5	4	56	44	21	27	10	10	71	65
学位論文(全文)	13	6			49	2	5		1		66	8
学位論文(抄録)	5	13		1	38	8	20	1	4		65	22
紀要, 学術報告(研究報告)等	32	2	6		63	5	5		7		91	7
科学研究費等の研究報告書等	5	4	2		27	4	6		51	1	81	9
研究成果目録	1	3	1	2	21	10	13	7	12	7	47	27
研究成果(ファクト情報)			1		13	7	2	1	4	1	19	9
特許, 実用新案等					6	2	1		13	5	20	7
研究者ディレクトリ	1		1	4	11	14	32	25	22	17	64	55
シラバスなどの教育情報		1	1	1	55	36	10	10	1	2	66	49
附属図書館の目録所在情報	35	99	1	1	1						37	99
図書館資料(貴重書を含む)の電子化		58		1		1					0	57
学内にある博物資料などの目録所在情報	5	3	1		7	7	1	1			14	11
インターネット資料へのアクセス情報・ナビゲーション	14	61	1	7	1	7	3	9		1	18	69
生涯学習の支援を意図した教材の公開		1			12	5			2		14	6
生涯教育の支援を意図した研究成果の公開		1			17	3	3	1	3	1	19	6

※ 国立大学図書館アンケートによる (99 大学回答)

※ 同一の発信情報を学内の複数の部署が発信している場合があるため、部署ごとの合計と「合計(大学数)」とが一致しない場合がある。  
(左記ワーキンググループ参考資料からの抜粋)

## 図書館からのお願い

～電子ジャーナルの増加と学外機関への文献複写申込～

附属図書館では、平成 13 年度に国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスク・フォースの成果であるコンソーシアムに参加し、その結果として、アクセス可能な電子ジャーナルは約 600 から約 3,000 タイトルに増加しました。

概ね、1997 年頃から電子ジャーナルのフルテキストが閲覧できるようになっています。中には例外があり、2000 年からのものもあります。

これまで、学外の図書館に依頼していた文献複写のかなりの部分が、この電子ジャーナル群によりカバーされています。最近数年間の文献

である場合は、まず、図書館ホームページの『電子ジャーナルリスト』でチェックしていただき、電子ジャーナルにアクセスしてみてください。それで閲覧できない場合に、始めて、学外文献複写の申し込みをしていただくようお願いいたします。

リストの表示に要する時間の節約を図る工夫や電子ジャーナルの各タイトル毎のアクセス可能巻号情報の表示を始めました。

使いやすいリストを目指し改善してまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

『電子ジャーナルリスト』 → [http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/ejournal/ej\\_list.html](http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/ejournal/ej_list.html)



## 附属図書館整備・改善の歩み

区 分		実 施 経 過	
		平成2年度～平成7年度	平成8年度～平成10年度
組織・機構		<p>事務組織改組（平2） 部課制設置（平3） 附属図書館事務組織改組（平4） 館報編集委員会（平6） 附属図書館図書選定委員会（平6）</p>	<p>蔵本分館図書選定委員会（平8） 附属図書館将来計画検討委員会の設置（平9）</p>
図 書 館 機 能	総合	<p>土曜開館実施（平4） 英文利用案内作成（平5） MLニュースを速報版に変更（平6） 学外者利用案内作成（平6） 本館夜間開館時間延長（平6） 自己点検評価報告書刊行（平7） 蔵本分館試験期夜間開館時間延長（平7）</p>	<p>Library Announcement（すだち速報版）創刊（平9） 館報の刷新（平9） 本館書庫入庫制限の変更（平9） 特別貸出（教室貸出）方式の変更（平9） 図書館学外者利用申請の変更（平9） 図書館利用案内の刷新（平9） 学報掲載の統計情報リメイク（平10） 図書館将来計画の策定（平10） 夜間開館時間の通年延長（分館：平10）</p>
	学習	<p>共通教育選書計画策定（平4）</p>	<p>学生用図書購入計画の見直し（平9） 「これならできる情報リテラシー」に参考資料 掲載（平10）</p>
	研究	<p>情報検索サービス開始：JOIS（本館：平2） 大型コレクション整備（平3,5,7） ILLシステムによるサービス開始（平4） ファクシミリ文献複写サービス開始（平4） ILLシステムによるBLDSCサービス開始（平6） 自然科学系特別図書の整備（平7）</p>	<p>自然科学系特別図書の整備（平9）</p>
	保存		
	電子	<p>図書館専用電算機導入（平2） 学術情報センター接続（平2） OPAC運用開始（平3） CD-ROMによる情報検索サービス開始（平5） 情報検索ガイダンス（分館：平3～） CD-ROMネットワークサービス開始（平6） 図書館専用電算機の更新（平6） UNIX版OPAC（TELNET）運用開始（平6） UNIX版CD-ROMサーバシステム（ERL）導入（平7） 電子メールによるILL申込受付（平7） 電子掲示板設置（平7）</p>	<p>UNIX版図書館トータルシステム導入（平8） WWWブラウザによるOPAC運用開始（平8） 古絵図の画像データベース化（学内特別教育研究費）（平9） 図書館ホームページ開設（平9） CAサーバーの導入（平9） ERL（CurrentContents, MEDLINE）検索講習会（平9） 伊能図・古絵図の高精細画像データベース化（科学研究費）（平10） 資料ID変換ソフト開発（平10） CAonCD, ClonCDネットワークサービス開始（平10） 無料電子ジャーナルサービス開始（平10） 視聴覚ライブラリーシステム導入（平10）</p>
事 業		<p>泉山文庫目録改訂版（本館：平2） 学術情報に関する講演会（平3～） 学術情報センター地域講習会開催：目録システム（平4～5） 学術情報センター地域講習会開催：NACSIS-IR（平5～6） 国立大学図書館協議会総会開催（平5）</p>	<p>学術情報センター地域講習会：ILLシステム（平10） 資料ID変換及びラベル添付作業（平10）</p>
施設・設備		<p>BDS設置（本館：平4） 情報検索コーナー設置（平5） 留学生資料コーナー設置（平5） 身障者用設備の整備（平6） 蔵本分館増改築（平6） 蔵本分館電動集密書架設置（平6） サイン整備（平7） 参考書架増設（平7） BDS更新（分館：平7）</p>	<p>学術雑誌閲覧室設置（平8） プライベートカード方式複写機導入（本・分館：平8） サービスカウンターの更新（本館：平9） 身障者用閲覧機増設（本館：平9） 図書自動貸出・返却装置導入（平9） 閲覧室椅子の更新（平9～10） マルチメディア・プラザの設置（本館：平10） 特別資料閲覧室・展示室設置（平10） 雑誌閲覧室の整備（平10） カラーコピー機導入（分館：平10）</p>
要 員 研 修		<p>目録システム担当要員養成研修（平1～5）13名 大学図書館職員長期研修（平2～6）3名 総合目録データベース実務研修（平3～5）3名 情報検索システム担当要員養成研修（平5～6）23名 図書館等職員著作権実務講習会（平7）8名</p>	<p>大学図書館短期研修（平9～10）2名 図書館等職員著作権実務講習会（平9～10）2名</p>
規定・その他		<p>資料不用決定取扱基準（平1決定） 図書選定委員会規約（平6）</p>	<p>図書選定委員会規約（平8制定） 貴重資料指定基準・取扱要領（平9） 徳島大学附属図書館広報委員会規約（平9） 徳島大学附属図書館館報発行要項（平9） 徳島大学附属図書館インターネットによる広報実施要領（平10） 徳島大学附属図書館館報発行要領（平10）</p>

実施経過	実施計画	今後の課題
平成 11 ~ 平成 13 年度	平成 14 年度	
分館情報サービス係と分館情報調査係の統合及び電子情報系の設置(平 12) 管理業務の一元化(平 13)	独立行政法人化への対応 事務一元化後の業務の整備	事務組織の改編
ボランティアの導入(平 11) 日曜開館の実施(平 12) 夜間開館時間の延長(試験期)(平 13) 自己点検評価アンケート実施 - 全教官・大学院生対象(平 13)	自己点検評価の実施 ホームページの改善と英文版の開設 印刷物と電子媒体の使い分けによる 広報体系の再編成	情報リテラシー教育の支援 館報「すだち」の電子媒体化
参考図書コーナーの設置(平 11) 「これならできる情報リテラシー」に参考資料Ⅱ改訂(平成 12, 13)	学生用図書の整備・充実方策の検討 学生用図書選書の迅速化 図書館利用指導の推進 授業へのサポートの定着	学生用図書の整備・充実
学術雑誌の集中化の実施(平 11) 自然科学系特別図書の整備(平 11) コア・ジャーナル経費の共通経費化(平 13)	コア・ジャーナルの一層の整備と利用の改善	電子媒体二次資料の充実
古絵図の補修(平 11)	重複資料の廃棄	収蔵スペースの確保
貴重資料高精細デジタルアーカイブ(WWW)公開(平 11) 雑誌記事索引のネットワークサービス(平 11) 図書館業務システムの更新(平 12) 目録データ遡及入力の実施(平 12 ~ ) 附属図書館ホームページの改訂(平 13) 電子ジャーナルの整備(平 13) SciFinderScholar の導入(平 13) 医学中央雑誌のネットワークサービス(平 13)	電子ジャーナル, 二次情報 DB の充実 電子ジャーナルのトライアルサービスの実施と評価 ネットワーク上の情報サービス源の提供 目録データ遡及入力(第 3 年次計画) 目次速報データベースの遡及入力 徳島大学紀要目次情報 DB の提供 貴重資料の DB 化の促進	貴重資料の電子化 電子メディア利用の拡大 OPAC データの整備(遡及入力)
徳島県立博物館企画展特別協力(平 11) 新 N A C S I S - I R 説明会(平 11) 中国四国地区電子的資料購入のためのコンソーシアム形成 W/G 参加(平 11) 情報検索講習会の実施(平 11) 中国四国地区大学図書館研究集会開催(平 12) 国立大学附属図書館事務部長会議開催(平 12)	学術情報に関する講演会の開催 利用者講習会の実施	資料展示会の開催
単体 CD-ROM 検索システム設置(本館:平 11) 貴重資料高精細デジタルアーカイブ閲覧システム(平 11) オーディオビジュアル・メディア室の設置(平 11) グループ研究室の設置(平 11) マルチメディア・コーナーの設置(分館:平 11) 閲覧机・椅子等の更新(平 11 ~ 13) OCS 端末機の増設(平 11) 情報コンセントの設置(平 12) 夜間入退館システムの設置(分館:平 11 本館:平 12) Ariel システムの本館・分館間試行運用開始(平 12) マイクロリーダー・プリンター更新(本館:平 12) 閲覧室網戸の設置(平 13) 自動入退館管理システム(平 13)	附属図書館の増改修計画 館内スペースの有効活用について検討 学部等からの返却資料の配置計画 視聴覚機器の整備 グループ学習室の整備 環境整備と館内アメニティの改善	附属図書館の増改修計画 館内スペースの有効活用 特別貸出図書の返納に伴う書庫スペースの確保 環境整備
文書資料保存研修会(平 12) 2 名 大学図書館長期研修(平 12) 1 名 徳島県図書館職員専門講座(平 12) 9 名 大学図書館職員講習会(平 12 ~ 13) 2 名 電子ジャーナルユーザー教育担当者研修会(平 13) 1 名 紀伊國屋書店電子ジャーナルユーザーセミナー(平 13) 1 名 国立情報学研究所公開講演会(平 13) 4 名 徳島県図書館職員研修会(平 13) 6 名 四国地区オンライン研修会(平 13) 4 名	職員研修会	
貴重資料高精細デジタルアーカイブ取扱要領(平 11) 徳島大学附属図書館ボランティア受入実施要領(平 11) 徳島大学附属図書館オーディオビジュアル・メディア室利用要領(平 11) 徳島大学附属図書館グループ研究室利用要領(平 11)	徳島大学附属図書館自己点検・評価 専門委員会規則	

## ちようりゆう

## 図書館の入館方法が変わりました



システムを利用される齋藤学長

附属図書館本館及び蔵本分館では、入退館ゲートシステムの更新及び新学生証への切替に伴い、平成14年5月7日から図書館の入館方法が変わりました。

附属図書館本館及び蔵本分館の2階利用者入口から入館するには、学生は「新学生証（ICカード）」、教職員及び学外利用者は「図書館利用証」が必要です。

入館ゲートの手前にカードリーダーポストが設置されていますので、新学生証の磁気部もしくは図書館利用証のバーコード部を読みとらせると入館ゲートのロックが解除されますのでゲートを押して入館してください。

図書館利用証をお持ちでない教職員は、入館ゲート手前からサービスカウンターの職員に声をかけていただくとロック解除しますので、入館ゲートを押して入り、サービスカウンターで

図書館利用証交付申請を行ってください。また、新学生証を入手していない学生は、暫くの間、図書館利用証でも入館できますが、早急に新学生証の交付を受けて下さい。

この新入退館システムの導入により、時間毎の入館者数など詳細な利用統計が可能となり、今後の図書館運営に役立てたいと考えています。

利用者の方々にはお手数ですがご協力をよろしくお願いいたします。

図書館誌所蔵目録データベース  
遡及入力事業第3年目

徳島大学附属図書館の蔵書目録の電子化を進めるため、平成12年度から遡及入力事業10ヶ年計画を立てて実施しています。平成12年度には本館所蔵図書約3.9万冊、平成13年度も同じく本館所蔵図書約3.8万冊の目録データを入力し、2年間で、人文・社会科学分野（NDC：日本十進分類法 100～336）の図書を入力し終えました。平成13年度末で、徳島大学全蔵書約84万冊のうちデータ入力冊数は約38万冊となり、製本雑誌等約17万冊を除くと、データが未入力の蔵書はあと残り約29万冊です。

平成14年度は遡及入力事業の3年目にあたり、4月から1年間を通じてアルバイト3名を継続雇用し目録データの入力を実施します。遡及対象資料としては、本館所蔵図書の社会科学分野（NDC 337～）の目録データを入力する予定です。

## 編集後記

レイアウトが変わりました。なかなか、デジタル出版オンリーは困難なようです。それでも、省資源を目指しシンプルなページ立てとしました。

URL <http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>

徳島大学附属図書館報「すだち」No.65  
2002年7月31日  
編集館報編集委員会  
発行徳島大学附属図書館

<表紙デザイン・レイアウト> 清水 國夫  
〒770-8507 徳島市南常三島町2丁目1番地  
TEL(088)656-7584  
FAX(088)656-9016